



Kaneji Okamoto

学園祭雑感

教育学部長 岡本 包治

ことしも本学の学園祭「鶴雅祭」が10月24、25日の両日にわたって我孫子校舎で開催された。

初日の24日(土)は大雨にたたられたが二日目の25日(日)は文字通り晴天の中に多数のお客様さんをも迎えて盛大を極めたのである。

25日は私も学園祭行事の一つである「ミス・コン」の審査員ということで一役を演じさせてもらった。この「ミス・コン」は在学女子学生の中からミスを選ぶものではなく、ミスターつまり男性っぽい在学女子学生を選ぶというコンテストだったのである。当然マスコミが注目し報道したことは言うまでもない。

コンテスト会場では8人の男性(?)が順番に、それぞれ数名の支援者を従えて舞台上にさっそうと出場してきた。柔道着の者、スキー服の者、男装の麗人らしき者な

ど思い思いの出立ちであった。支援者たちとともに歌う者、グループで踊りまくる者など、なかなかの演技力でアピール力も強烈であった。

このコンクールの評価は、前もって指名された数名の審査員の投票だけでなく、その会場に集まった在学生と外来者たちも「清き一票」を投じ、その集計結果が公表されたのである。川村学園女子大学はじまって以来、初の「ミスター」が誕生したことはいうまでもない。

ところで、この「ミス・コン」はその着想から企画・運営・評価のすべてを学生たちが行ったのである。教職員たちはもっぱら黒子役だったそうである。

私の実感を書かせてもらおう。「学生たちはなかなか、やるなあ」という、この一言である。

さわやかで心踊る一日であった。

女性の自然の力が必要とされるとき

問 川村学園女子大学の開学の目的はどのようなものですか。

答 幼稚園から始まる川村学園の教育理念を完遂するためには、大学と大学院の設置が必要と考えたからです。

問 では女子大学の学生に特にどのようなことを望みますか。

答 よく勉強して、自主性をもって世の中に貢献できる人になってほしいと思います。人生何が起こるかわかりませんが、ただ思い違いをしてほしくないことは、万一病気や事故などで世の中で役にたてなくなったようにみえることがあったとしても、その人は不必要な人間になるわけではないということです。苦しさや闘いながら生きていくことに、大きな価値があると思います。

問 昔とくらべて最近の女性はどのように変わったと思いますか。

答 自由になったというか、いいかえれば少ししつけというものに欠けているように思います。それは必ずしも悪いことばかりとはいえませんが、昔の人は何か決断をする前によく考えたのではないのでしょうか。現在の人々は、たとえば結婚や離婚についても、簡単に決めすぎるようです。

問 女性および男性にどのようなことを望みますか。

答 自然体であるということです。とくに女性には結婚して子供を産み育てるという使命があると思います。仕事をすることは大事ですが、肩肘をはってするようではどうしても無理がでます。先日女性で初めて経済企画庁長官になられ、その後ハンガリー大使をなさった高原須美子さんのお話をうかがいましたが、経済評論家として名をあげられる一方、お子さまを無事に育てあげられてまもなくご両親が倒れられたので、10年間その看護をなさったそうです。そのことを、ごく何気なくおっしゃっていらっしゃるところが、とても自然体だとお見受けいたしました。その時のお話では、ハンガリーでは閣僚



川 村 澄 子
学長
Sumiko Kawamura

の三分の二が女性だそうです。日本では、イギリスで150年、フランスでは85年かかった人口の老齡化が、20年で行われています。このような時にこそ、女性の自然の力が必要とされるのではないのでしょうか。

問 学生との交流を深めるためにはどのようなプランをもっていきますか。

答 忙しくてしばしば我孫子キャンパスにこられないのが残念ですが、今年は学園祭にもまいりましたし、そのような機会がもっともてるとよいと思っています。

問 好きな本はどんなものですか。

答 たくさんありますが、たとえばシンケヴィッチの「クオ・ヴァディス」とか、人間の原罪を鋭く描いた三浦綾子さんの「氷点」などは何度か読み返しました。「旧約聖書」のダビデの「詩編」なども好きですね。

「愛」という言葉 パウロの言葉

問 一番大事に思う言葉は何でしょうか。

答 「愛」という言葉です。これは心を受けると書くものです。「コリント前書」13章のパウロの言葉「愛は寛容にして慈悲あり。愛は妬まず、愛

は誇らず、驕らず…」の部分がたいそう好きで暗記しております。

問 どのような趣味を持っていますか。

答 6才の6月に藤間流日本舞踊のおけいこを始め、いろいろな芸道で奥伝や師範をとりましたが、現在まで続いているものは、長唄と謡でしょうか。最近は「源氏物語」や「伊勢物語」のような古典を原文で読む会に入りまして、その背景にある漢詩の世界に惹かれ、その朗読のお稽古などもしております。本当に苦しかった戦争直後の頃、疎開先で洋裁が、近所の農家の方々のオーバーやスーツを縫って日々の糧を得られる実践的技術だったことをなつかしく思い出します。今でも好きな生地を見つけると自分で裁断しますし、最初に教壇にたったのは、文化学院の洋裁研究室でした。

子供が成長していくのを見ること…

問 うれしかった思い出、悲しかったことなどは、どんなものですか。

答 やはり子供が成長していくのを見ることが、一番うれしかった思い出です。悲しいことは、生徒や学生に不幸があった時です。そのような時は何日も落ち込みます。

問 もしまた若くなれるとしたらどのようなことをしたいですか。

答 もっと勉強したかったと思います。いろいろなお稽古事に時間をとられすぎました。今は意欲はあっても夜中まで本を読んだり勉強をしたりすると、目は痛くなるやら肩はこるやらで哀れなものですから。

問 最後に大学の将来やキャンパスの計画について話してください。

答 来年3月には立派な図書館もできすし、施設も充実して、すべての学科にも大学院をつくって、皆でよりよい大学にするようにしたいと思っています。

(平成10年11月、電話インタビューに基づき、編集部でまとめたものです。)

グローカリズム GLOCALISM —物事を考え行動するに当たって—

奥田眞丈

前副学長・現芦屋大学学長



Shinjo Okuda

私は昭和63年から平成10年3月まで川村学園女子大学に勤めた。その間の様々な思い出は尽きないが、いろいろと関係の皆様方にお世話になり、本当にありがたく、心からお礼を申し上げたい気持ちである。

私は「実践」を重視し、特に「教育は実践、をモットーとし、P(計画)—D(行動)—E(評価)—I(改善)をその在り方としてきた。このP—D—E—Iを考えるに当たって最近グローカルという言葉をよく使うようになった。これはグローバル(global)とローカル(local)からの造語である。周知のように今はグローバルばやりだが、昔は国際的といわれ、今地球的、近き未来は宇宙的となるものではないが、実践的に考えてみると、まず、自分はどうか、自分の周辺はどうかということも十分に慎重に考えなければならないことである。すなわちロ

ーカルな事柄は決して無視すべきではないであろう。あれこれ考えてみると、グローバルという言葉に酔い、流されてしまうのではなく、しっかりとローカルに根を下さねばならないこともたくさんあるのではないかと思う。

先般の大学審議会の答申でも、21世紀の大学は「課題解決能力」を身につけるようにしなければならないと提言しているが、これはまさにグローカルな視点に立つ必要があるということだと思う。

こんなわけで私は「グローカリズム、を提唱したいのだが、如何だろうか、御批正をお願いしたい。

嬉しかった思い出

松谷天星丸

元一般教育課程教授・現在非常勤講師



Tenhosimaru Matutani

枯葉が校庭に舞う季節になってきた。私は昭和63年本大学の開学と同時に着任し、平成10年3月に定年退職した。その間、大学の発展と共に校内の眺めも随分変わって来た。来年この季節には新校舎を背景に、どんな風景が展開されることであろうか。



朝、校門を入ると、遙か向こうに5号館の吹き抜けの、正門の壁画が目に入る。何処の大学にも、学生の心に一生残る特別な建物とか、大樹とか、時計台とかがあるように、本学には花時計がある。しかしこの大学を思うとき、私の心に浮かぶのはあの壁画である。若人がここに学び、ここで多くの出会いをいただき、夢と希望を持って社会へ出ていく、そんな場所にふさわしい光景だと思って眺めている。宇宙ステーションが論じられる今日であるが、この壁画の前に立つと、私は恵みの陽光を受けた、さまざまな色の雲の彼方に、思いを馳せ、明日を期待する気持ちになる。

私は一般教育の自然系の科目を担当してきた。この大学では、卒論指導に関与する機会のないまま過ぎたので、学生との交流の機会が少なかったことが少し心残りである。しかし、学生や市民からもらった嬉しい思い出がある。数年前、私が足の骨折をしたとき、松葉杖で3号館の講堂に、少々気恥ずかしい思いで入って行った途端、講堂は水を打ったように静かになった。日頃は私語に悩まされていたのに、静かに講義を聞いてくれるようになった。その後、何人かの学生が、「先生の姿を見て、私たちは勉強しなくては」という気持ちになったと、感想を書き送ってくれた。私の思いを受け取ってくれたこの言葉は、私にとって、忘れ難い記憶となっている。また大学では公開講座を設け、地域社会に貢献しているが、昨秋、私は我孫子市の消費団体の人々が催す展示会で、行事の一つとしての、講演を頼まれて、市民に接する機会があった。その時、住民や市の議員から「川村学園女子大学がこの地に来てくれたことを、私達は大変喜んでいます」という言葉をきいて嬉しい思いをした。

本学の出身者が、国際的に活躍する機会もこれから増えることだろう。将来卒業生が、どの道を歩まれようとも、高度な教育の基盤の上で、更に日本女性の美しさを、他国の人々に知らせるひとなってくださることを願っている。

この機会に、お世話になった学園の皆様御礼申し上げると共に、学園の一層の発展を心から祈っている。

鶴雅祭報告

●●● TSURUGASAI REPORT

『第10回鶴雅祭』を終えて 1998年10月24日～25日

10月24日・25日、皆様のご協力のもと第10回鶴雅祭を大成功に終えた。開催に際し学生委員の先生から「学生らしく・自由に!」といわれ、総勢16名の実行委員が成功を目指して全力で頑張った。

今年のテーマはズバリ「challenge～登りつめよう」であり、そのテーマのごとく、いろいろなことに挑戦した。例年と大きく違う所は、メイン会場を屋外にして企画を立てたことである。特設ステージを設置し、公演可能な部が日頃の成果を発表したり、我孫子河童太鼓の会やホットポットファミリーバンドなど地元の方々にも出演してもらった。中でも、25日に行われたミスコンは、「さっぱり、

さばさば」した男性的な人を選ぶという大変ユニークで珍しい企画だったため、朝日新聞にも大きく掲載された。そして、学園祭の締めくくりは、木村佳乃さんを迎えてのトーク&ライブ。両日合わせて1,500人以上もの人が、学園祭に足を運んでくれ大好評のうちに幕を閉じることができた。

学園祭という大イベントを終えた今、実行委員一人一人の胸は、大変だったという気持ちよりも何かをやり遂げたという満足感でいっぱいである。ここで経験したこと、学んだことを必ず将来に役立てていきたいと思う。

最後に、第10回鶴雅祭が大成功をおさめられたことは、いうまでもなく先輩が代々築いてくれた土台があったからこそだと思う。今回の私達の学園祭も後輩の手本となり、土台となって益々発展していくことを願っている。

学園祭実行委員長
田口 文香



challenge
～登りつめよう～

サークル活動報告

●●● ACTION REPORT

ダンス部 羽ばたくダンス部

今年もダンス部は活躍の場を広げている。日本の大学では唯一ダンカン・ダンスを踊っているクラブである。平成9年長野オリンピック冬季大会、文化・芸術祭参加、「世界舞踊祭」に出演。恒例の神戸での「全日本高校・大学ダンス・フェスティバル」に出演、7月の「柏まつり」にも招待され、テレビでインタビューも含めて放映された。この秋には地元の我孫子市「文化祭」への初参加と、心身障害者福祉作業所「みずき」の文化祭にもボランティア活動として出演し、イ

サドラ・ダンカン・ダンスを踊った。現在は1999年3月の柏市文化会館(2200人収容)での発表を控えて、部員一同さらに練習にはげんでいる。

社会教育学科2年 酒井亜美

華道部 花のある生活

華道部では毎週水曜に草月流の先生からご指導いただいている。華道というと、着物とか正座とか堅苦しいものと思われがちだが、そんなことはない。椅子に座っていけるので気軽に出来、基礎を学んだ後は自分で考え、アイディアを活かした自由な作品を作ることができる。

普通の活動の他に学園祭で毎年作品を展示している。また、去年に引き続き今年も、柏高島屋の『学園祭がやってきた』という催しの一部として、高島屋のロビーに竹を使った作品を展示した。大きな作品だったので作るの大変だったが、皆と一つの物を作りあげる喜びを体験し、その後一週間の間、多くの人々に作品を見てもらえた。

華道部員は、毎週新しい花々と出会い、いつも花のある生活を楽しんでいる。12月にはクリスマスリースを作る。華道に興味のある方は是非、水曜の午後にミーティングルームに見学に来てみてほしい。

心理学科2年 田上伸子



ウインドアンサンブル部 「風奏」

私達ウインド・アンサンブル部は、23人で活動している。1年間の主な行事として、4月に新入生歓迎コンサート、10月に学園祭、12月にクリスマス・コンサートがある。

昨年9月初めの合宿では親睦を深めるとともに、学園祭に向けての集中練習を行った。学園祭前には柏、高島屋で『学園祭がやってきた』というイベントに参加。久しぶりの学校外での演奏と多くの観客を前にするという点でとても緊張したが、合宿での成果を十分に発揮する

ことができた。学園祭では高島屋での経験を生かして演奏することができ、満足のいくものとなった。

12月11日(金)の昼休みには、私達にとって年度最後のイベント、クリスマス・コンサートが3号館横で行われた。ここでは、『ホワイト・クリスマス』と『クリスマス・キャロル・ファンタジー(メドレー曲)』の2曲を演奏。みなさんの来場は、私達の大きな励みと喜びであった。

活動日は、毎週水・木曜日の2回、第1音楽室で行っている。少しでも興味のある方、音楽の好きな方、また、私達と共に「こんな曲を演奏してみたい!」と

いう意欲のある方、いつでも見学に来てほしい。 英語英文学科2年 森みどり

タッチフットボール部 CRANES 3位入賞

関東女子タッチフットボール秋季リーグ戦 績

川村(CRANES)	12-12	文京女子大学
	6-13	成城大学 (優勝校)
	48-0	早稲田大学
	7-13	日本大学
	39-0	お茶の水大学
	18-6	慶応義塾大学 (準優勝校)

キャンパスから

アーチェリー選手

和久恵美子 心理学科1年

今年の神奈川ゆめ国体成年女子の部で千葉県代表候補選手に選ばれた和久さんにインタビューしました。

問 アーチェリーを始めたきっかけを教えてください。

答 高校（千葉県立流山中央高校）では、生徒全員が何かの部活に入らなければなりません。入学式の後に各部活を見学した時、アーチェリーは弓を引く姿がとても魅力的だったので、直ぐに入部しました。

問 どこで、いつ練習したのですか？

答 高校の射場で、土・日も含めて毎日2～3時間くらいは3年間ずっと練習しました。

問 部員は何人くらいでしたか？

答 男女全学年で30名くらいでした。同期では1年生の時13人いましたが、3年生の時には3人だけに減ってしまいました。

問 誰が指導したのですか？

答 顧問の男の先生と上級生、卒業生です。

問 試合はいつごろから出場したのですか？

答 初めの3カ月間は、筋肉トレーニングとランニングばかりでした。その後、ゴムを使って弓を引く練習をしました。秋の1年生大会に初出場して、いきなり3位に入賞できました。

問 その後の成績はどうでしたか？

答 スランプに陥って2年生の秋まで、全くダメでした。

問 どのようにしてスランプから立ち直ったのですか？

答 3年生が引退したので上級生としての自覚が出て来て、徐々に成績も上がりました。大会に出場しても、それなりに結果を出せたことで自信を回復しました。

問 地道に努力した甲斐があったわけですね。その後は順調でしたか？

答 3年生のインターハイ千葉県予選で団体優勝して、夏に京都の全国大会へ遠征しました。予選を通過して本戦出場しましたが、1回戦で負けました。

問 高校ではいつまで部活を続けていたの



ですか？

答 11月に川村の指定校推薦を受験した後、個人戦千葉県代表で関東大会へ出場し、2月のインドア大会まで部活を続けました。

問 今回の国体予選の経過はどうでしたか？

答 千葉県成年女子予選は、1次予選3回、2次予選を経て、最終予選で5人に絞られ、幸運にもその中に残ることができました。

問 ところで、アーチェリーの試合方法を教えてください。

答 シングルと呼ばれる競技方法がメインです。女子の場合は70、60、50、30メートルの4種目を各36本の合計144本射ち、中心に命中して10点なので、満点は1440点になります。

問 優勝ラインはどのくらいですか？

答 通常1100から1200点です。

問 和久さんの最高得点はいくつですか？

答 1112点です。

問 素晴らしい得点ですね。射る時は何を考えているのですか？

答 次の1射のためのフォーム修正や軌道修正です。

問 それなら雑念が入らないですね。今後の活躍を期待しています。

(平成10年9月28日

インタビューアー：学生課長 和田 造)

熱気と興奮であふれかえった「'98柏祭り」

杉本亜紀子 情報教育学科3年

いままで「祭り」というものに遊びに行くという参加しかしたことがなかった私が、今年は千葉テレビのレポーターとして「'98柏祭り」に参加した。祭りの楽しさや熱気、興奮をどのように表現して伝えたらいいのか悩んだが、スタッフや一緒にレポートしたお笑いコンビの「やるせなす」の方に、肩の力を抜いて思うままにレポートすればいいし、いつでも助け船をだすから、というアドバイスをもらい、ロケに入った。実際ロケになると、いろいろ考えていたことを忘れてしまうほど緊張したし、その場その場の状況に応じてのレポートになった。気をやむより思うままにというアドバイスの意味がよくわかった。とにかく心の中で「明るく、明るく」という気持ちを唱えていたせいか、祭りの盛り上がりと同じくらい私自身のテンションもあがった。

祭りの様子や、祭りに参加した人、遊びに来た人の感想などあらゆる面から柏祭りをレポートする事ができたが、中でも特に感じたのは柏市の人々の強い団結力と暖かな心遣いであった。さまざまな神輿があり、競い合う中でも互いを認め合い、皆で踊る



「柏踊り」も小さい子供からお年寄りまでと幅広い年齢層からなっていて、文化の受け継ぎというものを感じた。私達のインタビューにも気軽に応じてくれたり手を振ってくれた。レポーターとして自分の意見を話すだけでなく、たくさんの人の意見を聞くことの重要性がわかった。また番組を作る上で、レポーターというものが制作の人達の大きな支えによって成り立つものであるということを実感した。構成を考える人、音響やカメラの人、アシスタントの人など誰か一人でも欠けてしまったら、良いレポートはできないし、番組作りも成り立たなかったと思う。

今回の「'98柏祭り」のレポーターをやったことによって、柏市民の人々や番組制作の人々などたくさんの人とふれあうことができた。このとき限りと言うのではなく、現在でも制作スタッフの方々と交流をつづけているし、とても素晴らしいものをたくさん得ることができた。今回のレポーターという貴重な体験を今後役立てていけたら良いと思っている。

テニストーナメント

藤原 昌樹 一般教育課程 助手

●第17回千葉県教職員テニス大会 シングルス優勝（千葉県教職員テニス連盟主催 平成9年12月14日 千葉県総合運動場）
●第8回関東テニス協会レイティングトーナメント シングル準優勝（関東テニス協会主催 平成10年5月24日 昭和の森テニスコート）
●第10回日本テニス学会テニス大会 ダブルス優勝（日本テニス学会主催 平成10年9月21日 青森県岩木山総合公園テニスコート）



以上が私のここ1年間の主な競技成績である。

父親が剣道の師範（範士十段）だった影響で、学生時代までは剣道一筋であった。テニスを始めたのは7、8年位前からである。たまたまテレビで1980年のウィンブルドン決勝が放映されていた。ボルグ対マッケンローの、4時間に及ぶ、全英オープンテニス史上最高といわれる試合であった。

当時世界を制したボルグのトップスピン・ストロークと、マッケンローの天才的ラケット・コントロールにすっかり魅せられてしまい、以来、剣道以上にテニスに熱中することになった。

今年は、文部大臣認定のテニスコーチの資格を取得した。来年は、アメリカのプロコーチの資格（U.S.P.T.R.）に挑戦しようと思っている。目標は、全日本ベテランズ大会（35歳以上）優勝。まだまだ現役でがんばるつもりである。

川村英文学会にサンダーズ教授をお招きして

田中 淑子 英語英文学科教授

1998年9月26日（土）に第5回川村英文学会が行われた。卒業生・在学生・教員は、今年も、総会・特別講演・卒業生の談話・懇親会から成る楽しくも充実した一時を過ごした。

今年の特別講演は、英国の古い歴史を誇る名門大学の一つダラム大学教授のDr.Andrew Sandersにお願いした。ダラム城に住んでおられる先生は、古色蒼然というより52歳の恰幅のよい元氣な方だった。ロンドンで寿司を楽しむ親日家で、東京に着くやいなや「本物の寿司」に挑戦したそう。関東関西地方の大学で講演する予定の中で、初日が川村であった。雨が降っていたが、傘もささずに登場し、さすが英国人と思った。

演目は『ディケンズと子供たち』である。ディケンズは『オリヴァー・ツイスト』のミュージカル化、「クリスマスキャロル」のテレビ上演、今年の夏の『大いなる遺産』の映画化などで、日本でも馴染み深い作家だ。彼の作品には、必ず子供が登場する。大人や社会に犠牲になる子供をセンチメンタルに巧みに描いたので、当時の人々は作品が毎週連載される度に涙し、時には教育法や児童労働法の改正にまで力を発揮した。実は、演目はこちらから1年前にお願いしており、学生はこの演目を目指して、ディケンズの作品を勉強してきた。「早すぎたら手を振ってください」と言っていた先生だが、大きな体から朗々と響く英語は、段々早くなり、学生は圧倒されたようだ。スライドも理解を助けたかもしれないが、とも



かく最後には質問を流暢な英語でするなど積極的に参加したのは、学生の努力の成果である。英文学への理解を深めると共に、自分の英語力を試せるよい機会であったようだ。

平成10年度我孫子市 市民大学開放講座

テーマ

心のメッセージⅡ

開講日	演 題	専攻・講師名
9月12日 (土)	「心と体の健康法」	(心身医学) 末松弘行
9月19日 (土)	「名画鑑賞の心理学」	(心理学) 岡本榮一
9月26日 (土)	「子どものメッセージ」	(幼児の身体活動の発達) 野尻裕子
10月3日 (土)	「子のこころ親知らず」 —心理相談室から見えるもの—	(臨床心理学) 高良 聖
10月17日 (土)	「異文化理解とコミュニケーション」	(言語学) 松原知代子
10月31日 (土)	「ポスト・マルチメディア 社会のルネッサンス」	(情報工学) 庄司裕子
11月7日 (土)	「歴史学からの反省」	(歴史学) 松井 透

学ぶことのできるよろこび —「高見沢文庫」について—

松井 洋 心理学科助教授

心理学科の資料室に「高見沢文庫」と名づけられた一書架ができた。これは、心理学科の九期生で97年11月に亡くなられた高見沢育代さんのご遺族から、後輩の勉強の役に立つようにとのお気持ちによるご寄付をいただき、それを基に設けられたものである。

高見沢さんは4年生になって「他者の好意の判断に及ぼす期待の影響」という卒業論文の題目も決まり準備をはじめたころ、病魔に倒れ勉強を続けることができなくなり、そしてその年の11月、享年21才の若さで帰らぬ人となった。



いま、「高見沢文庫」に収められた107冊の心理学の書籍をみると、30年近く心理学の勉強が続けてきている私でも、読んでみたいと思うものがいくつもある。実際、人類が蓄積してきた知恵は、一個の人間ではとても全てに通じることができないほど膨大であり、何十年、何百年学んでもまだ全然学び足りないだろう。学問をするということは無限の先にある目標に向かって歩いていくということであり、だから面白いのである。

そして、たった3年間で心理学の勉強を終わりにしなければならなかった、高見沢さんの無念はとても言葉であらわすことのできないものであっただろう。療養中の彼女に「ゆっくりあわてないで」とか「これからも勉強する時間はあるから」と言った私の言葉を彼女はどんな気持ちで聞いていたのだろうか。なんと心ないことを言ったのだろうか、とりかえしはつかない。

文庫の一冊を手にとってみると、自分が学ぶことができるということがどんなに幸福なことなのかを実感する。ただ、自分の年齢を考えると、あと何冊本を読めるかと、ちょっと心配になる。学生諸君をみていて、時に妬ましく感じられることがあるのは、彼女らのはつらつとした若さや元気さを感じるからではないだろう。学生が教師より若くて元気なのはあたり前である。ただ、彼女らがこれからの人生で、自分の何倍も本を読んだり、いろいろな経験をすることのできる可能性の持ち主だということを思う時、彼我の持つ未来の大きさの違いに愕然とするのである。だから、若者たちに「もっと勉強しろ」とか「本を読め」などと説教するつもりはまったくない。ただただうらやましいだけであり、「きみたちは本当に幸福なんだよ」と言いたいだけである。

本学教官により最近出版または再版された書物

●田辺裕監修、生井澤（遠藤）幸子他訳「図説大百科世界の地理18・南部アフリカ」1998年、朝倉書店。

●Kyoko M.Nakamura tr.&ed.,Miraculous stories from the Japanese Buddhist Tradition, The Nihon Ryoiki of the Monk Kyokai, repr., Curzon Richmond,1997

●森田玲子、「やさしい美学」1997年、タイケン出版

吉田浩子 英語英文学科1996年卒

「夢は必ずかなう」そう教えてくれたのは、アナウンサーの先輩でした。

この言葉だけが頼りだった就職試験。晴れて青森テレビへ入社。局アナとして1年間過ごした後は、東京でフリーになり、念願だったフジテレビでリポーターなどを務めていました。

アナウンサーって華やかな仕事？とんでもない!! 人前で怒られて恥かしい思いをしたり、どろんこになって取材したり…。カッコなんかつけていられません。でも、毎日が自分のやりたいことへの挑戦です。次はサッカーに関わる仕事がしたいと、番組を企画、取材しています。

気がつけば、次々と希望をかなえている自分がある。夢のためには、ねばり強さとほんの少しの行動力があればいいのです。今はとても充実しています。

「夢は必ずかなう」——皆さんの夢も、きっとかないますよ。

杉浦幸恵 幼児教育学科1995年卒

小倉台幼稚園に就職して早四年、現在、三才児を担当し、子ども達が日々成長していく姿に感動しながら、楽しい毎日を過しています。子ども達が「先生、おはよう!」と目を輝かせて登園してくる姿や、泣いているお友だちに「大丈夫だからね。」と声をかけてあげたり、ひとりでは出来なかったお着替えに挑戦し、「出来た!」と嬉しそうに見せに來たりする姿に、私自身も励まされています。子ども達の豊かな発想や、思いがけない表現に新鮮な驚きを覚えます。明日はまたどんな新しい発見があるかと思うと、一日の疲れも癒されます。

桜井優子 情報教育学科1998年卒

現在私は、インストラクターとして働いています。ひとえにインストラクターといっても、企業の方々をお相手として講習を行っています。講習を行う以外には、電話対応や本社に対するパソコンの管理などを行っています。専門的知識を必要とする特殊な業務ですので、実力第一です。入社したてのころは人間関係が一番気になるころでしたが、徐々にこの世界で働いていくためには専門知識と実力がものをいうことに気づいてきました。やはり、専門知識を持っている人は強いです。

また、学生から社会人になって一番苦労しているところは言葉使いです。学生同士の気ままなおしゃべりから急に、相手と自分の立場を常にわきまえて言葉を

使わなければならなくなります。仕事から、ことさら厳しく教育されました。私の場合、最初の3ヶ月は、ひたすら話すことについての研修を受け、厳しいこともたくさん言われました。しかし、厳しくても続けていけるのには、この仕事に少しでも「おもしろい」と思えるところがあるからだと思います。ただ、かっこいいとか、楽だから…。給料がもらえればいい…。など、安直な気持ちで社会に出るとその後が辛いと思います。「この仕事に向いていないのでは…。」と思うこともしばしばありますが、教える楽しさ、知識が増えていく楽しさを思い出し、がんばってみようと思いを励ましている毎日です。

皆さんも、これならがんばれるという職業をぜひ見つけてください。

「卒業生は今」原稿募集のお知らせ

「花時計」は、大学での現在をお伝えするために学内ばかりでなく、卒業生にもお送りさせていただくことになりました。「卒業生は今」のコーナーでは、卒業生からのひとこと(200字程度)をお待ちしています。卒業年度と学科を必ずお書き添え下さい。採用分には大学のテレフォンカードをさしあげます。

伊藤真由美 史学科1997年卒

卒業後、外資系ホテルで働き始め1年半以上が経ちます。入社後9ヶ月は研修で、様々なセクションを経験しましたが、下積み期間なので、きびしい仕事ばかりでした。

しかし基礎が形成されたのはこの時期で、決して無駄ではありませんでした。

今年に入り現在の職場である、宿泊部テレフォン・オペレーターに正配属され、最近では仕事にも慣れて落ちついていきます。オペレーターは裏方の仕事なので、ホテルのイメージである華やかさには欠けますが、ホテル業務に欠かすことのできない仕事の一つです。責任が大きく、常に正確な情報と敏速な判断・対応が要求されます。決して楽な仕事ではありませんが、その分やりがいがあります。最近ではホテル業務がさらに面白くなってきて、さらなるステップアップを考えています。「後悔しないように、やりたい事をやれるうちにやろう!」この Motto で頑張っていきたいと思います。

飛高和歌子 心理学科1998年卒

私は卒業後、映像制作会社に勤務しています。

テレビ番組の制作がメインですが、ビデオの制作も行っており、取り扱っている内容は多分野に及びます。この職種について皆さんが思っているイメージは、「忙しい」「不規則」「厳しい」といった印象ではないでしょうか。

実際はどうかというと、プロデューサーやディレクターの指示を受け、動くだけではなく、自らが進んで仕事を見つけて働かなくてはなりません。常に臨機応変に動かなくてはならないため、意志の疎通が重要となってきます。ここが非常に困難な点です。そして、ロケで国内や海外を短期間でまわったり、編集室に何十時間もこもったりするので、精神的・肉体的共に重労働です。しかし、そのような状況でも、一人一人が責任を持って行動し、よりよいものを創造しようという姿勢で取り組んでいるので、活気に満ちています。

私が仕事を選ぶのにあたり目標としていたのは、自分を表現できる仕事であることです。今の職業は、いかにクリエイティブな世界を構築できるかを求められるので、その点において理想的だったと思います。ですが、実際には現場でのトラブルや放送の規制の問題も多く、思い通りの制作進行は困難です。しかし、自分たちの制作したものが、無事放送されたときの安堵と多くの人にみてもらえるという達成感は、たとえようのない快感です。まだまだ駆け出しですが、人種に関係なく、国境を超えて感動できる番組が作れればと思っています。

編集後記

- 第5号も予定通りに無事発行のはこびとなりました。コミュニケーションを広げるための広報紙ですから、投稿を歓迎しています。(Y)
- 今回は学長先生の特別インタビューなどもりだくさんの内容が掲載され、私自身も楽しみな花時計No.5である。ご感想など、お寄せ下さい。(M)
- 花時計は、卒業生の皆さんの元気な活動の状況を知るうえで有意義だと思っています。(F)
- 教職員も学生にならって、前向きに活動しています。花時計を情報交換の役に立てる広報紙にしたいものです。(K)

発行日/平成11年2月1日第5号発行
制作/川村学園女子大学広報委員会
<http://www.kgwu.ac.jp/>